

**<まちづくり団体・住民の皆さまの取組み>****南町一丁目商店街振興組合のまちづくりの取組み**

平成18年度、水戸市中心市街地の玄関口としての役割を担う、当商店街の魅力づくりを目的に「けやき王国まちづくり」と題し勉強会を実施した。今年度は、水戸市の事業「花フルタウン」美化推進に賛同し、「櫛と花」の環境美化として取り組むことになった。同時に、文教地区としての役割を取り上げ、学校との連携についても検討した。

●街のシンボル「けやき並木街路の景観づくり」その現状と課題

街路をもっと活用するために、今何が課題かを協議した。

- ①中低木の中にゴミが捨てられている。
- ②櫛の下の植樹帯がまばらとなっている。
- ③イメージの違うフラワーボックスがばらばらにおかれている。
特に、木製のフラワーボックスの老朽化が目立つ。
- ④櫛と一体となった、休息場所が必要。
- ⑤水戸市「花フルタウン」美化推進との連携。
- ⑥地域住民参加型（街応援団づくり）「けやきイベント」の実施。

まず、すぐ実行できることからスタートすることになった。

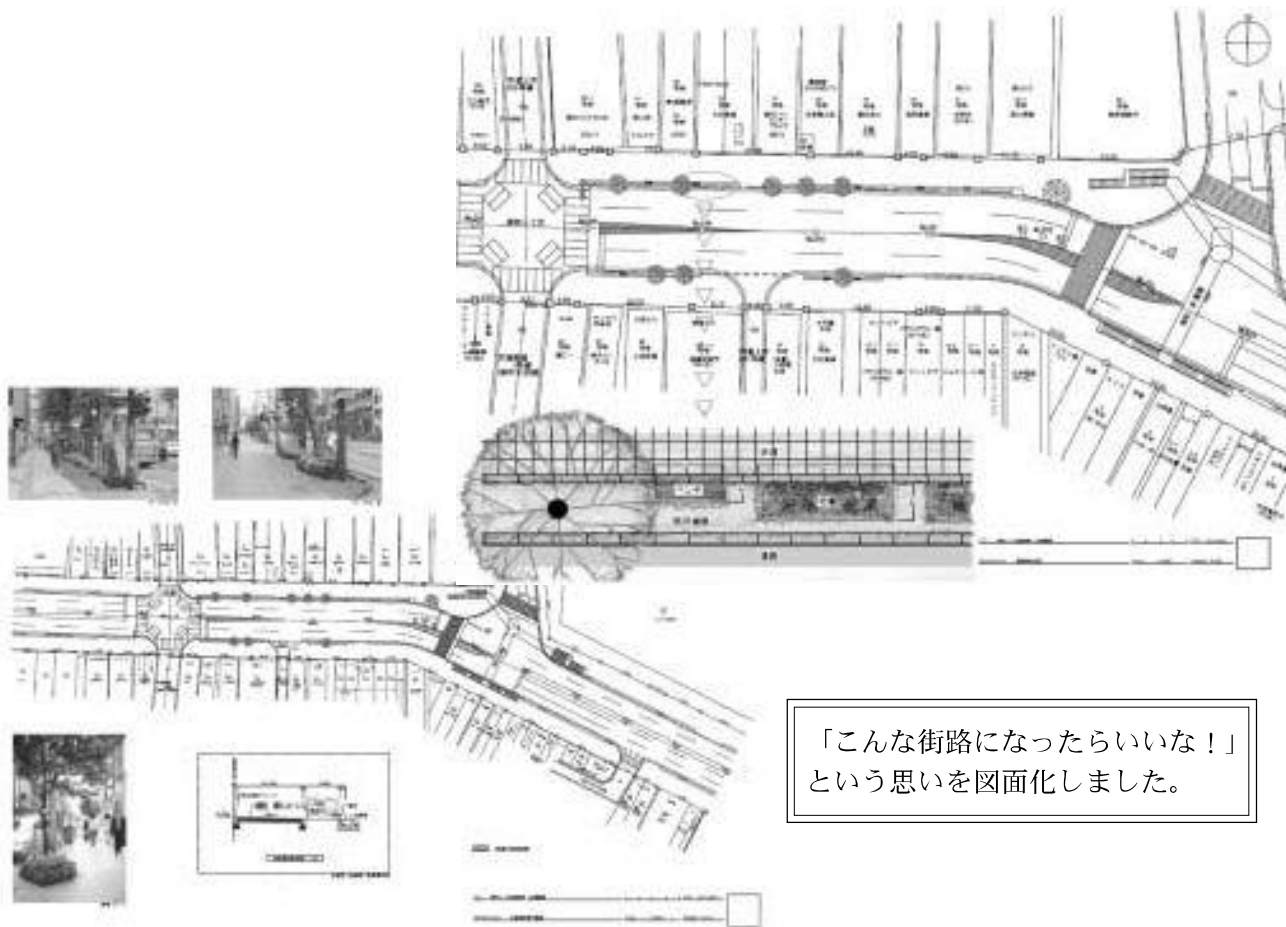
中低木の中にゴミが捨てられる問題では、若手経営者が中心となって街の清掃からはじめることになった。清掃活動は、単に清掃することのみが目的ではなく、通行する通学や通勤者に対して、朝の挨拶することも街のPRの一端となることを確認し「清掃と挨拶」をテーマとして毎週決った時間を実施することになった。実施には、(イ)統一した服装で行う。(ロ)「きれいな街をめざして清掃しています」等と描いたポスターやのぼりなどをつくり大げさに元気に行う。(ハ)将来は、街応援団の仕組みもつくり、地域住民参加型の清掃活動を行うこととする。実施の詳細は、若手経営者の自主的な計画にゆだねることになった。

櫛の下の植樹帯がまばらとなっている問題では、新たに植樹するより少なくなっている部分をうまく生かして花を植えるなどを考えようとの意見が多く出された。

イメージの異なるフラワーボックスがばらばらに置かれ、街全体としての統一感を無くしている問題では、水戸市の事業「花フルタウン」美化推進と連携した美化活動に取り組むことで、支援策があるとの助言があったことから、あらためて街路景観における、まちづくりの学習をすることになった。街路デザインとは何か？街路景観とは何か？を参考図書を活用しながら図面上に夢を描き、一部植樹帯をなくし、来街者が休息できるベンチの設置も検討した。

しかし、計画半ばに「街路は、道路管理関係機関の管轄のため、中低木の移動は、商店街負担で実施」との指導があった。会員から当商店街としては、来街者のニーズや中心商店街活性化の視点にたつて、自分たちの考えをまとめたことへの希望が強く出されたことから、せめて、図面化だけでも進めようということになった。

今年度は、資金力の問題で座礁に乗り上げた感はあるが、“来街者を気持ち良くもてなす街路”という視点にたつて清掃活動や挨拶運動などへ発展し、会員のやる気に繋がったことは決して無駄ではないと考える。次年度は、先進事例の視察を実施し、さらに自分たちで理想的な“街のデザイン”を検討し、一歩でも実現化にむけて頑張りたい。



「こんな街路になったらいいな！」
という思いを図面化しました。

また、地域住民参加型（街応援団づくり）「けやきイベント」の実施も検討した。一部の会員から「買物は快適な大型店に行ってしまう。街は無理」との失望的な意見が出された。しかし、当商店街のファン組織（街応援団）をつくるために、参加しやすい文具店で実験的にイベントを実施することになった。8月には「夏休み！子供達の居場所づくり」と安全な「見守りの街」として、子供達と仲良くなるための“夏休みアート教室”を開催し、9月には、大人向けの街中カルチャー教室を開催し、参加者からまた実施して欲しいとの要望が出された。

子供達や地域住民と商店街が仲良くなることにより、学校毎の花壇づくりや地域住民参加の花いっぱい活動も夢ではないと確信した。



【問合せ先】
南町一丁目商店街振興組合
TEL 029-231-3331

＜夏休みアート教室のお知らせ＞＜街中カルチャー教室のお知らせ＞